

地域における新型コロナウイルス対応事例集

それぞれの地域で、柔軟で機動的な取り組みを進めていくために

2020.05.14



本資料について

新型コロナウイルスの影響は、全国各地へと広がっています。政府が4月16日に緊急事態宣言の対象を全国へと拡大したことで、各自治体は新たな対応を迫られています。

日本における新型コロナウイルス対応の大きな特徴は、地域に取り組みの仕方を大きく委ねていること、そして強制力を伴わないことです。各地域、各現場における自発的な取り組みが出てくることによって、感染拡大抑止の実効性が高まります。また、長期視点で今後への準備を進めていくこともできます。

本資料は、自分の地域で何ができるかを考えようとしている方々のヒントになりそうな材料を少しでも共有するために作成しているものです。自由にご利用いただければ幸いです。なお、事例でご紹介した方々へのお問い合わせは、ご多忙の折、できるだけ控えていただきますようお願いいたします。

株式会社アイディアシップ

※本資料は頻繁に更新しています。表紙の日付が最終更新日です。

・ 自宅待機の市民に買い物代行

大分県豊後高田市は3月初旬から、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、食料品などの買い物を代行する支援事業を実施しています。風邪などの症状があり、感染の不安から自宅で静養している市民を対象としています。

- 利用方法 市健康推進課へ電話で申請した上で、地区別の利用窓口に電話
- 取扱品目 食料品や日用品、衣料品など
- 配達 平日のみ、玄関先に段ボール箱で届ける
- 手数料 不要
- 支払方法 自宅待機を終えた後に金融機関から振り込む

<参考>

自宅待機の市民に買い物代行 大分

<https://www.asahi.com/articles/ASN346TDCN34TPJB00J.html>

大分県豊後高田市

https://www.city.bungotakada.oita.jp/page/page_05204.html

・ コロナ救済で臨時職員を採用 自治体に動き広がる

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、自治体の間では、企業の内定を取り消されたり職を失ったりした人を臨時職員として採用し、マンパワーを補充する動きが広がっています。

<参考>

コロナ救済で臨時職員に 自治体に動き広がる

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2020041300055&g=soc>

京都市「新型コロナウイルス感染症の影響により生じた失業者等の優先的な募集について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000269025.html>

- ・宴会のキャンセルや外食の自粛などで客足が落ちこむ市内飲食店で出前やテイクアウトを積極的に利用促進「まちメシTATEBAYASHI」(まちメシ)

群馬県館林市は、新型コロナウイルスの影響で宴会のキャンセルなどが続く市内飲食店から出前やテイクアウトをしようという働きかけを行っています。

従来は出前禁止だった館林市役所の庁内ルールを緩和し、出前を解禁。職員だけではなく、併設する市議会の議員も利用できるようにしています。

続いて、市内飲食店や住民に「出前やテイクアウトができるお店情報をお寄せください」という呼びかけを実施。一定程度のリストができたならそれを公開し、庁内全体で共有するとともに、市役所だけではなくご家庭や職場などでも「まちメシ」ができる環境や仕組みを作ろうとしています。

館林市の商工会議所や消防署、群馬県の出先機関にも働きかけて、輪を広げています。

<参考>

「まちメシ」で新型コロナを打ち破れ!～館林市が始めたお互いさまプロジェクト～
<https://www.jt-tsushin.jp/article/machimeshi-tatebayashi/>
https://www.jt-tsushin.jp/article/machimeshi-kaisetsu-hayakawa_2/

・行政手続きや教育のデジタル化を推進 職員のテレワークも強化 新型コロナ対策で 『ちばしチェンジ宣言！』

新型コロナウイルスの感染拡大防止を契機に「人々の行動が制限される中でも、社会経済活動を維持するための環境整備が必要だ」として、行政・教育・企業等の変革の方向性をまとめた『ちばしチェンジ宣言！』を千葉市は宣言しました。

- 行政手続きのオンライン化を推進
- インターネット事前申請をした人を優先し受付ける「ファストレーン」新設
- 市民窓口の呼び出し状況、「交付番号モニター」の様子をYouTube配信
- 医師などの医療職免許証を郵送にも対応
- 遠隔会議と職員のリモートワーク体制を強化
- 市が保有するデータを外部の人材が活用できるような仕組みを整備
- オンライン教材導入など、教育のデジタル化
- IT活用を考える企業に対しての支援強化

「新型コロナウイルスの収束後、再び困難な状況が発生したとしても対応が可能な、しなやかな社会を構築することが重要」ということを趣旨としています。

<参考>

ちばしチェンジ宣言！

<https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/miraitoshi/smartcity/documents/changesengen.pdf>

千葉県千葉市 千葉市公式ホームページ

<https://www.city.chiba.jp/>

・ クラスター公表施設に100万円の協力金 賃料減免のオーナーにも助成金 中小企業支援

千葉市は17日、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、スーパーや飲食店などクラスター（感染者集団）が発生しやすい施設で、新型コロナ感染者が出た場合、施設名を公表・調査協力した事業者に100万円の協力金を支給すると発表しました。営業休止期間における施設の維持や、その後の再開への円滑化を支援するとしています。

熊谷俊人市長は同日の臨時記者会見で「経営へのダメージを恐れて、施設名の公表に応じないケースが出ている。クラスターの早期発見と対処のため、公表に同意した企業を支援していくことが必要」と話しました。

また、休業要請を受けた業種や飲食店が入居しているビル等のオーナーのうち、テナント賃料の減額や免除を行ったオーナーに、減免分の一部（1テナント当たり上限50万円）を助成することも決め、今月下旬から実施する予定です。

<参考>

【新型コロナ】賃料減免で中小企業支援 クラスター公表の施設にも 千葉市が緊急対策
<https://www.chibanippo.co.jp/news/politics/684341>

千葉県千葉市 千葉市公式ホームページ
<https://www.city.chiba.jp/>

・土砂災害警戒の避難所で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策

低気圧による大雨の影響で、13日千葉県では一部の地域に避難勧告が出され、避難所が設置されました。

避難所は3密（密閉・密集・密接）が発生しやすい場所として懸念されている為、感染拡大防止に鴨川市では以下のような対策をとりました。

- 手指消毒液の設置
- マスク、体温計準備
- 避難所に入る前の検温、問診
- 出来る限りの換気
- 出来る限り密にならないスペースの確保
- 体調の優れない避難者は個室で過ごしてもらう など

鴨川市では18日も大雨が予想されたため、避難勧告を発表した際には自宅で安全が確保される場合は自宅にとどまることや、安全な場所にある親戚や知人の家に避難することを検討するよう呼びかけていました。

<参考>

大雨で避難所 感染防止で全員体温計測の異例の対応 千葉 鴨川

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200413/k10012384001000.html>

千葉県鴨川市 鴨川市公式ホームページ

<http://www.city.kamogawa.lg.jp/>

・「手作りマスク」市が買い取り、希望者へ無料配布

岩手県一関市は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でマスクが入手困難になっている為、市民が手作りしたマスクを市が1枚150円で買い取り、希望する市民に無料で配布する「みんなのマスクプロジェクト」を始めました。

買い取るのは大人用（縦9センチ、横17センチ程度）としていますが、中には子ども用の手作りマスクを「寄付」として持ち込んだ方もいたとのこと。

4月24日まで買い取りを続け、集まった分だけ配布していく予定としています。
(1人2枚まで。なくなり次第終了)

<参考>

岩手県一関市「手作りマスク」買い取り 市民へ無料配布「感染予防の意識高めて」
<https://www.j-cast.com/trend/2020/04/14384260.html?p=all>

岩手県一関市 一関市公式ホームページ
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/28,123801,56,746.html>

・家庭ごみ収集作業員が感染リスクに直面 リスクを下げる取り組み

新型コロナウイルス感染拡大の陰で、ごみ収集作業員が感染リスクと直面しています。

可燃ごみの袋に不燃物が混じっていると、開封して仕分けなければなりません。ごみ袋の中には感染者のウイルスが付着した恐れのある使用済みマスクや飲み口の開いたペットボトルなどが入っている可能性があり、感染リスクが非常に高いのです。

東京都品川区では十一日から「クラスター発生に備え、リスクを下げる取り組み」として、四カ所ある拠点ごとに偏っていた人員を再配置し人数を均一にするなど対応していますが、消毒用アルコールの備蓄が少なくなるなど不安は続くといえます。ごみ収集作業員も医療従事者と同じように、不足しているマスクや防護服など衛生用品を優先的に届ける支援を現場は訴えます。

しかし、収集現場でフィールドワークをしてきた大東文化大の藤井誠一郎准教授は「市民も、分別ルールを守ったり袋をきちんと縛ったりするなど、協力できることはある。小さなことだがこうした積み重ねが地域社会の維持につながる」と強調しました。

ごみ収集事業維持のために住民ができること

- 分別ルールや収集日を守る
- 使用済みマスクやティッシュは小分けの袋に入れて捨てる
- 飲料の空き容器の飲み口はしっかり洗う
- ごみ袋の口はしっかり縛る

<参考>

<新型コロナ>ごみ収集 危険隣り合わせ 自宅飲食増「分別ルール守り協力を」
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/tokyo/list/202004/CK2020042502000107.html>
東京都品川区公式ホームページ <https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>

・ 防災無線でラジオ体操 新型コロナで運動不足解消呼び掛け

新型コロナウイルスによる影響で、高齢の方など自宅にこもりがちな人たちの運動不足を解消してもらおうと、岩手県大槌町は防災無線を活用しラジオ体操を放送する取り組みを15日から始めました。

大槌町・平野公三町長は、「町民の皆さんに、運動不足を少しでも解消いただくとともに、『コロナウイルスに負けないぞ』という大槌町民の心意気を示すために、天候がよければご自宅の前やベランダで、雨の場合は室内で放送に合わせて一緒に体を動かしましょう。そして終わったら「拍手」で、全国で新型コロナウイルス感染症に立ち向かっている医療関係者に感謝を込めて、一斉の拍手でエールを送りたいと思います。」としています。

ラジオ体操は午前9時と午後3時の2回、5月6日まで毎日放送される予定です。

<参考>

防災無線でラジオ体操 大槌町

<https://www3.nhk.or.jp/news/morioka/20200415/6040007220.html>

岩手県大槌町 大槌町公式ホームページ

<https://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/docs/5.html>

・医師会と自治体が連携し、PCR検査センターを都内10カ所に設置

東京都医師会は4月17日、都内にある47の地区医師会と地元自治体がそれぞれ協力し、感染の疑いがある人を検査する「PCRセンター（仮称）」を順次、各地に設置すると発表しました。

4月中にも新宿区、杉並区など10カ所程度で開設する見通しも示しています。
（杉並、新宿両区以外の設置予定は、各地区が個別に発表するようです）

これまで疑い例の相談などは、保健所が中心となって受けていましたが、地域の医師がこれまで以上に窓口的な役割を果たすこととなります。

PCRセンターでは医師会の医師や看護師、事務職員が一組になり、検体を採取。感染が確認された場合には保健所に連絡し、保健所が症状に応じて入院や宿泊施設・自宅での療養を調整する、という流れになります。

<参考>

<コロナ 医療を守ろう>PCR検査、都内10カ所に 月内にも 医師会、自治体連携
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/national/list/202004/CK2020041802000150.html>

・タブレットによる「遠隔手話通訳」で手話通訳者の感染を予防

兵庫県加西市で、聴覚障害者と医師らとの間で、手話通訳者がタブレットやスマートフォンなどの画面越しに手話通訳する「遠隔手話通訳」の取り組みが始まりました。

手話は口元の動きや表情が意思の疎通に欠かせず、マスク着用が難しいとされています。新型コロナウイルス感染が広がる中、手話通訳者の安全を確保するのが狙いといえます。

発熱など感染が疑われる症状のある場合、タブレットの1台を診察に訪れる医療機関に預け、もう1台は別室待機の手話通訳者が使用します。医師からの診察内容を、タブレットのカメラを使い遠隔で通訳し視覚障害者に伝えます。

岡山県総社市でも、同じような取り組みに注目が集まっており、導入実験が行われているそうです。

<参考>

発熱の視覚障害者診察に タブレットで手話通訳 加西市

<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/covid19/202004/0013296331.shtml>

兵庫県加西市 加西市公式ホームページ <http://www.city.kasai.hyogo.jp/index.html>

新型コロナ感染拡大進む中…“遠隔手話通訳”に注目 導入に向け実証実験【岡山発】

<https://www.fnn.jp/articles/-/29014>

岡山県総社市 総社市公式ホームページ <http://www.city.soja.okayama.jp/>

「買い物代行支援事業」買い物代行業の協力者に対し市から協力金（岐阜県美濃市／協力市民）

・「買い物代行支援事業」 買い物代行業の協力者に対し市から協力金

岐阜県美濃市では、新型コロナウイルス感染症緊急対策として、買い物代行業を利用した場合、掛かった代行費用（1回500円）を支援する「買い物代行支援事業」を始めました。

買い物を依頼する人（世帯）が、買い物に協力する人（協力者・例えば近所の人）に依頼して買い物を行った場合に、協力者に対し市から協力金が支払われる仕組みです。協力金は、1世帯あたり1回500円（申請後、市からの振込み）。

買い物をする内容や買い物代金の支払い方法は、依頼者と協力者が相談して決めます。買い物・物品の受け渡し完了後、「買い物代行支援事業協力者報告書」とレシートの提出などの手続きをする流れとなっています。

利用世帯について利用料は無料（買い物代は別途必要）、利用回数は期間中（6月10日迄）10回まで利用可能。親族（三親等まで）への依頼は、対象外となっています。

<参考>

岐阜県美濃市 公式ホームページ

<http://www.city.mino.gifu.jp/pages/47610>

・自治体から受託、地元団体が移動販売車で買い物支援

鹿児島県出水市は、新型コロナウイルスによる買い物困難者や高齢者の買い物支援のために、出水市地域興し協力隊「イズミライブプロジェクト」に業務を委託し、移動販売車での販売事業を始めました。

スーパーが近隣にない自治会の大半を対象に、山間部や郊外の団地など30ヶ所を回ります。販売車は週1回、決まった曜日・時間で各公民館を訪問し、それぞれ滞在時間は10～20分ほど。スピーカーから音楽が聞こえてきたら、移動販売車が来た合図です。

民間、行政、商工会etcの人達が垣根を超えて、それぞれの出来ることで力を合わせ、出水のまちを盛り上げる団体「イズミライブプロジェクト」。
代表の小原大成さん（45）がオーナーを務めるコンビニの商品や、地元食材、総菜や漬物、日用品なども販売しており、買い物で困っている人のために今日も車を走らせます。

<参考>

コロナ禍の買い物弱者支援へ移動販売先拡充 出水市 <https://this.kijii.is/632564460047778913>

イズミライブプロジェクト <https://izumiraiproject.com/>

鹿児島県出水市 公式ホームページ <https://www.city.kagoshima-izumi.lg.jp/>

自治体からの委託受け、オープンデータやソース活用の
感染症対策サイトを一般社団法人が開発
(東京都／一般社団法人 コード・フォー・ジャパン)

・東京都がオープンデータ、オープンソース活用の 「東京都新型コロナウイルス感染症対策サイト」公開 都の委託受け、一般社団法人が開発

3月に東京都が公開した「新型コロナウイルス感染症対策サイト」は、PCR検査実施数や感染者数、属性などの最新データが日別、累計とグラフ化され、元となったデータを確認できるようリンク付けもされており、公式情報と客観的な数値をわかりやすく伝えるサイトとなっています。

サイトの開発は、行政やコミュニティーとともに情報技術を活用した地域課題の解決活動を行う、一般社団法人のコード・フォー・ジャパン(Code for Japan)。このサイトが画期的なのは、誰でもサービス（アプリ）開発に参加できる「オープンソース」という枠組みを使っている点です。外部の協力者から改善点のアドバイスなどを受けることもでき、また東京都のサイトの「ソースコード」を複製することで、他の自治体でも同様のサイトをすぐに作成できます。

東京都により公開された「ソースコード」を活用し、行政が保有する新型コロナウイルス感染状況の情報を分かりやすく発信するサイト設置の動きが、各自治体で広がっています。

<参考>

ICT教育ニュース <https://ict-enews.net/2020/03/24code4japan/>

東京都新型コロナウイルス感染症対策サイト <https://stopcovid19.metro.tokyo.lg.jp/>

一般社団法人 コード・フォー・ジャパン <https://www.code4japan.org/>

・ コロナに負けない観光業のために、
地域一体で「着地整備」にフォーカスして取り組む

徳島県三好市では、自治体、観光事業者、地域団体が連携して、大打撃を受けている観光業の「アフターコロナ」を見据えた取り組みを進めています。利用客の減少で時間ができたことを、地域の魅力を再発掘する絶好の機会として活用しています。

コロナウイルスによる利用客の減少を受けて始めた取り組み

- 地域の清掃活動
- 徳島県内、近隣県からの近場プランの造成
- 地域の料理人向けのメニュー開発研修会
- 官民一体プロジェクトチームの立ち上げ
(三好市、観光協会、徳島県民局、DMOそらの郷、大歩危祖谷いってみる会 で構成)
- 観光地を回る研修
- プロモーションに使用するタリフ、動画、パンフレット等の整理やガイド養成

<参考>

コロナに負けない！観光業が今できること
https://www.yamatogokoro.jp/column/corona_casestudy/37873/

新型コロナの影響は甚大ですが、まずは資金繰りで自らの会社と社員を守ること、そしてこれまで忙しくてできなかったことをリストアップし着実に実行することが大事です。また、観光は近隣の施設や行政との関係も大切です。この時期は、行政の力も借りながら、まずは地域内で今やれることなど、知恵を出すことです。苦しいのは皆同じですので、反転攻勢の機会を待って準備をしっかりとやる時期だと思います。その時は必ずやってきますので、その際はもう一度観光立国日本を目指しましょう。

(一般社団法人大歩危・祖谷いってみる会 会長 植田佳宏氏)

<引用元>

コロナに負けない！観光業が今できること

https://www.yamatogokoro.jp/column/corona_casestudy/37873/

（秋田市内一部飲食店・タクシー会社／秋田中央地域地場産品活用促進協議会）

・飲食店メニューをタクシーがお届け 「おうちでタクメシ！」 秋田市とJA、地元飲食店、タクシー会社が連携

飲食店の料理をタクシーで宅配するサービス「おうちでタクメシ！」の実証実験が、5月1日から秋田市内で始まりました。

タクシーは本来、荷物や食品の配送を禁じられていますが、国が特例措置を認めたため、休業要請を受けテイクアウト中心に切り替えた飲食店と、需要が激減したタクシー会社の連携が実現しました。

事業主体は、秋田市がJAと立ち上げた「秋田中央地域地場産品活用促進協議会」。配達料金の一部を協議会が補助する仕組みになっています。

協議会運営のホームページ「おうちで秋田メシ！」に掲載されている飲食店のうち、3地区にある一部店舗から注文が可能。

代金は、注文した料理の料金（税込み1500円以上）＋配達料金300円としており、配達エリアは、順次広げる予定とのことです。

<参考>

タクシー使い料理をデリバリー「おうちでタクめし」 秋田で実証実験へ

<https://news.yahoo.co.jp/articles/dd925dc4b69b6704138840a7d8abd7b4dfea86d0>

・学習動画をテレビ放送 「テレビでLet's study」

横浜市教育委員会は、臨時休校中の児童生徒にインターネット上で学習動画を配信していましたが、20日から5月6日まで一部の動画をt v k（テレビ神奈川）でも放送することを決めました。

ネット環境が無くてもテレビで学習動画を視聴できるようになるので、市内だけでなく神奈川県内の多くの児童生徒が動画を視聴できるようになります。

○対象 小学1年生～中学3年生

○内容 4月に学ぶ予定の全教科の内容 一コマ10分程度

○「テレビでLet's study」／ t v k(テレビ神奈川)サブチャンネル(032)

4月20日(月)～5月6日(水)

(平日)午前9時～午後4時半 (土日)午前9時半～午後2時

<参考>

学習動画をテレビ放送 小中臨時休校で横浜市教委

<https://www.kanaloco.jp/article/entry-333360.html>

神奈川県横浜市 横浜市公式ホームページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/plankoho/kyouikukoho/200410dogahaishin.html>

・ **新型コロナウイルスに関する問い合わせ対応を、
AIチャットボットを使用して効率化・高品質化**

福岡県宮若市と兵庫県赤穂市は、AIを活用した住民向け相談システムを提供するアルベルト社が自治体へ無償提供するAIチャットボット「スグレス」を採用したと報じられています。

「スグレス」には、厚生労働省発表の「新型コロナウイルスに関するQ&A」を活用。運用開始後も最新データが反映できます。各自治体固有のQ&Aも追加でき、それらの質疑応答データを再学習させることで、24時間いつでも高品質な回答を行うことができる、と説明されています。

<参考>

新型コロナウイルス対策の一環として 全国自治体におけるチャットボット導入が加速
株式会社 ALBERT

<https://kyodonewsprwire.jp/release/202004169087>

- ・ 福岡県宮若市 宮若市公式ホームページ <https://www.city.miyawaka.lg.jp/>
- ・ 兵庫県赤穂市 赤穂市公式LINE <https://line.me/R/ti/p/%40596mnkyb>

・新型コロナウイルス対応のAIチャットボットを 保健所とハローワークに無償提供

AIチャットボットツール国内最大規模の導入実績を持つチャットプラス社は、新型コロナウイルスに関連する問い合わせが押し寄せる保健所とハローワーク向けに、70%以上の質問に自動回答できるAIチャットボットツールを開発し、全国の保健所やハローワークに対する無償提供しています。

<参考>

新型コロナウイルス対応のAIチャットボットを開発 保健所とハローワークに無償提供開始
チャットプラス 株式会社

https://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_000000011_000019803/

・業務負荷に苦しむ保健所向けのクラウドパッケージ

新型コロナウイルス感染拡大の対応に迫られる各地の保健所では、国や県への報告用の帳票作成に時間がかかる、業務フローやヒアリング内容が流動的に変化するため集計作業や報告が煩雑になる、ヒアリング内容が手書きのため進捗管理が難しいといった課題を抱えています。

企業向けクラウドサービス大手のセールスフォース・ドットコムは、全国の保健所を対象に、「新型コロナ保健所業務支援クラウドパッケージ」を、2020年9月30日まで無償で提供しています。

同パッケージには、問い合わせ管理機能、PCR検査管理、疫学調査管理、濃厚接触者管理、各種集計管理などの機能が含まれる予定です。

<参考>

新型コロナ保健所業務支援クラウドパッケージを全国の保健所向けに無償提供
株式会社 セールスフォース・ドットコム
<https://www.jiji.com/jc/article?k=000000059.000041550&g=prt>

・お年寄りや妊婦の「優先入店時間」を大阪府内のイオンが設定 大阪府の要請に応え

大阪府の吉村知事が24日、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、多くの買い物客が訪れるスーパーマーケットの「3密」回避に向けた対策を発表し、事業者に混雑緩和の協力要請をお願いしました。

それを受け、大阪府内の流通大手「イオン」の35店舗では、お年寄りや妊婦、障害のある方などが優先して買い物ができる優先入店時間を26日から設けました。時間帯は午後2時から午後3時、一部のレジを優先レジにするほか、混雑した場合には入場を制限することもあるということです。

入場時に確認をする仕組みではなく、担当者は「強制はできないので、お客様に（優先時間帯の）意識をもってもらえれば」と話します。

<参考>

大阪府スーパー「3密」対策発表

<https://www3.nhk.or.jp/kansai-news/20200424/2000028836.html>

大阪府公式ホームページ

<http://www.pref.osaka.lg.jp/default.html>

妊婦や高齢者ら向け「優先タイム」 イオンが大阪で設定

<https://www.asahi.com/articles/ASN4T522HN4TPLFA001.html>

イオン大阪ドームシティ店

<https://www.aeon.com/store/イオン/イオン大阪ドームシティ店/>

自治会が消毒液の生成装置購入 住民らが生成、無料配布 (神奈川県相模原市中央区／上溝地区自治会連合会)

・自治会が消毒液の生成装置購入 住民らが生成、無料配布

相模原市中央区の上溝地区自治会連合会が、同連合会の費用により消毒液（微酸性電解水）生成装置を購入。住民らが生成し、加盟する16自治会を通じて会員の約6500世帯に配布を行っています。

配布する消毒液の微酸性電解水（微酸性次亜塩素酸水）とは、希塩酸を電気分解し水道水で希釈して生成する液体で、強い殺菌力がある一方、厚生労働省から食品添加物の指定を受けるなど安全性が高いといえます。

自治会連合会や社会福祉協議会などで作る団体「ALL上溝」と協力し、保育園や幼稚園、高校などの教育施設、福祉施設にも提供予定とのことです。

<参考>

【新型コロナ】「手に入らないのでうれしい」 相模原市中央区の自治会が消毒液を無料配布装置購入し住民が生成

<https://news.goo.ne.jp/article/kanagawa/region/kanagawa-20200504214007.html>

相模原市自治会連合会 公式ホームページ

<https://www.sagamihara-jichiren.jp/>

・事業継続のために、考えられる対策を総動員

住まいのリフォーム・新築・不動産を地域に密着して手がける桃栗柿屋（滋賀県東近江市）は、社長を本部長とする対策本部を設け、顧客、協力事業者、社員・家族の安全確保・感染予防・感染拡大防止を最優先とする方針のもと、事業の継続に向けた対応を実施。緊急事態宣言が明ける5月7日まで、考えられるかぎりの対策（次ページも参照）を講じながら、呼びかけも徹底しています。

- ・営業担当者は、原則在宅勤務、現場への直行直帰に
（班分けをして出勤許可日を設け、印刷や資料ピックアップはその日のみとする）
- ・事務員は、オフィスの4隅に散らばるくらいの距離を取って執務
- ・お客様への集客チラシを全て取りやめ、新規のお客様対応は5月7日以降に随時行う
※ライフラインに関わる修理系のみ受け付ける
- ・来訪者には、受付に人を置くことを止め、内線をかけていただき、担当者のみが対応
- ・宅配の受け取りは、一時荷物置き場を設営し後に社員が回収する方式に

新型コロナウイルス感染症への対応に関する呼びかけのアプローチ

顧客

- ✓ ウェブサイト
- ✓ すべてのチラシに掲載
- ✓ 店頭入口での掲示
（アイコンを使用）
- ✓ 新築の完成見学会で掲示

協力事業者

- ✓ FAX送付
- ✓ 情報システム上での共有

社員・家族

- ✓ 毎日の朝礼で共有（取り組み事項の読み合わせ）
- ✓ お客様向け、協力事業者向け、社員向けの周知内容を、封筒に入れて配付（自宅へ持ち帰り）

<参考>

桃栗柿屋様からご提供
いただいた資料

桃栗柿屋ウェブサイト
<https://www.momokurikiya.com/>

桃栗柿屋で社員に周知している感染防止対策（一部割愛、2020年4月18日時点）

事務所

- ✓ 毎朝の検温と自己チェック（深く息を吸って10秒間我慢※）
- ✓ 毎朝の消毒（携帯端末、受話器、ドアノブ、階段手すり、トイレ内、コピー機）
- ✓ 外出者は、帰社時に手の消毒
- ✓ 加湿
- ✓ 常に換気扇を回す
- ✓ 昼食は2m離れ、会話はしない（会話はマスクを着けてから）
- ✓ 喫煙は、2m離れる、個別に屋外の喫煙スペースへ行く
- ✓ 換気タイム（10時、12時、15時、17時に、それぞれ5分間）
- ✓ うがい、手の消毒タイム（10時、15時）

来訪者への対応

- ✓ 手の消毒、マスク着用をお願い（お持ちかを尋ね、無ければお渡しする）
- ✓ お飲み物の提供は、ペットボトルで
- ✓ ショールームでは、手袋を着用いただき、自らも着用する
- ✓ 体調が悪そうな方がいた場合は、責任者の指示を仰ぐ
- ✓ お帰りの後に、テーブル・イスを消毒（除菌スプレーとペーパータオルで）

※台湾の専門家が推奨する簡単なやり方です。深く息を吸って、10秒我慢し、咳や息切れなどの不快感がなければ、肺が繊維症状になってないと判断できます。

外出時・現場

- <自動車>
- ✓ 消毒ジェルを常備する
- ✓ 二名以上で乗車する時は窓を開ける
- ✓ 二名同時に喫煙しない

- <現場>
- ✓ 職人さんにもマスクを必ず着用してもらう

帰宅後と普段の心がけ

- ✓ 水を飲む（口を乾燥した状態にしない）
- ✓ 帰宅したら風呂に直行し、服をすぐに洗濯する
- ✓ 金属面に注意する（1週間ウィルスが生き続けることも）
- ✓ 免疫力アップの健康生活を心がける
- ✓ 体調がおかしいかもしれないと感じたら、責任者に連絡
- ✓ 友人に出会った時など、咳をしていないから、と油断しない
- ✓ 三密に該当する場面を避ける（家族以外と家の中で食事、家族で外食 飲み会、食事会、カラオケ、スポーツジム、船）
- ✓ 子ども同士行き来させることは禁止
- ✓ マスクを持たずに外出することは禁止
- ✓ 店員がマスクをしていない店に行くことは禁止
- ✓ 散髪時もマスクを着用する

・感染拡大防止時のニーズに対応するサービス タクシー会社による買い物代行

水戸市に本社を置くタクシー会社「さわやか交通」は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、買い物代行・同行サービスを手がけています。

同社は、「ご高齢の方や在宅勤務の方、スーパーのお買物や病院のお薬の受け取り等で感染がご心配の方、また、お食事の出前をお願いしたい方に代わって当社乗務員がお買物やお料理の配達をいたします」としています。

- 利用対象 営業所があるひたちなか市とつくば市の住民
- 利用方法 購入を希望する商品や分量を電話やFAXで同社に伝える
- 取扱品目 主にスーパーや薬局で購入できるもの
飲食店の持ち帰りの総菜や弁当も対象とする
- 利用料金 ①購入した店から利用者の自宅までの運賃
②サービス料500円
③運転手が立て替えた買い物代金 の合計

近距離の利用も多く、1回の総費用は2000～3000円程度のことが多いと報じられています。

<参考>

さわやか交通「お買い物代行・同行サービス」 <https://www.sawayaka-kotsu.jp/okaimono-daiko-doko>

お年寄りの「巣ごもり消費」お手伝い 茨城県水戸市のタクシー会社が買い物代行サービス
<https://mainichi.jp/articles/20200410/k00/00m/040/102000c>

・ 子どもの預け先に困る家庭のために、旅館が独自の取り組み

湯沢町の温泉旅館「松泉閣 花月」は新型コロナウイルス感染が終息するまでの間、子どもの一時預かりサービスを手がけています。

キッズルームと宴会場を使い、ベビーシッターや保育士の資格を持つスタッフら最大3人体制で受け入れ。勉強机や子ども向けDVD、ボードゲーム、お菓子などを用意し、ラジオ体操や勉強などスケジュールを組んで見守ります。

同旅館は、「シングルマザーや核家族などの家庭で、頼る場所がないときはぜひ活用してほしい」としています。

- 対象 年長児から小学生
- 利用方法 事前予約
- 預かり時間 平日午前9時～午後5時
- 利用枠 先着10人
- 料金 1日当たり保険料500円、300円で昼食が付く

<参考>

子ども一時預かりや格安プラン 旅館が独自の取り組み 新型コロナウイルス閉塞感打破
<https://www.niigata-nippo.co.jp/news/local/20200314530911.html>

松泉閣 花月
<https://www.shousenkaku-kagetsu.com/>

(東京都大田区／株式会社フードサプライ、東京都品川区／株式会社串カツ田中ホールディングス)

・車に乗ったまま野菜を買えるドライブスルー八百屋 好評により全国販売開始 飲食店での店頭販売も

外食むけ業務用青果卸のフードサプライ（東京都大田区）が、車に乗ったまま野菜を買える「ドライブスルー八百屋」のサービスを開始しました。

休業で売れ残った国産の野菜や果物、コメや卵などを段ボール箱に詰めた「もったいない野菜セット」を5千円で販売。
買い物客は車から降りることなく、スタッフがトランクに箱を積み込んでくれるので、待ち時間が無く人との接触を極力避けることができます。また、営業を自粛する飲食店が相次ぐ中、食品ロスを減らす狙いもあります。

現在は東京都大田区、千葉県野田市のみの開催でしたが、好評の声を受け、まずは北海道、静岡、大阪、国立市で4月25日（土）から販売開始予定。その後順次、神奈川、埼玉、名古屋へも展開予定とのことです。

また、大手串カツチェーン「串カツ田中」と手を組み「もったいない野菜セット」を店頭販売も。株式会社串カツ田中（東京都品川区）は「『ドライブスルー八百屋』を手掛けるフードサプライのノウハウを活用し、余剰野菜を店頭販売という形で販売することでステイホーム活動へ貢献するとともに、契約農家の生産活動を少しでも助ける効果も期待しています」としています。

<参考>

『ドライブスルー八百屋』全国で『もったいない野菜セット』を販売へ！！

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000055809.html>

株式会社フードサプライ <http://www.foodsupply.co.jp/>

串カツ田中 『ドライブスルー八百屋』とタッグ『もったいない野菜セット』の販売を開始

<https://www.jiji.com/jc/article?k=000000157.000027839&g=prt>

株式会社串カツ田中ホールディングス <https://kushi-tanaka.co.jp/>

・新型コロナウイルス感染防止対策 ぬいぐるみでソーシャルディスタンスを確保

りそな銀行の一部支店が、ぬいぐるみを使ったユニークな新型コロナウイルス感染防止対策をしているとSNS（会員制交流サイト）上で注目を集めています。

人と人との距離を保つ「ソーシャルディスタンス（社会的距離）」をめぐる対応として、1席分でも席と席との間隔を空けてもらう為に、銀行の3人掛けソファの真ん中にぬいぐるみを座らせるというものです。

ちよこんとソファに座るぬいぐるみは、りそなグループのマスコットキャラクター、白猫の「りそにゃ」。

ソファには、りそにゃがすでに座っているため、客は真ん中に座ることはないといえます。

コロナで張り詰めた気持ちが和らぐほっこりする対策に、利用者からは「気持ちがなごむ」など評判を呼んでおり、ほかの支店でも徐々に取り組みが広がってきているとのこと。

<参考>

「ぬいぐるみ」でコロナ感染防止 りそな銀行がユニークな取り組み

<https://www.sankei.com/economy/news/200421/ecn2004210033-n1.html>

・買い物かごを入場券がわりに スーパーの「三密」防ぐ入場制限

緊急事態宣言後も連日多くの方がスーパーに買い物に訪れ、スーパーでの「三密」状態が問題になっています。こうした中、「三密」を防ぐための北海道のスーパー・フレッシュイングローブでの入場制限の取り組みが、ネット上で話題になっています。

それは入場券代わりに「買い物かご」を持った人しか、店内に入れられないというもの。スーパーの入り口には40～50個ほどの買い物かごが置かれ、「お客様へお願い」と以下のお願いが貼りだされています。

「現在三密回避のため、入店制限中です！
当店の買い物カゴを入場券代わりにさせていただきます。
この入場券（カゴ）なしの方はご入店できません」（原文引用）

社長の中森正浩さんは「お弁当ひとつ買う場合でも、必ずかごを持ってもらうよう呼びかけています。お客さんには店舗の外で待ってもらわなければいけない時もあるのですが、理解してもらえてありがたいです」と話しています。

<参考>

「この手があったか！」三密防ぐ入場制限、あるスーパーの“機転”に反響【新型コロナ】
<https://www.msn.com/ja-jp/news/money/「この手があったか%ef%bc%81」三密防ぐ入場制限、あるスーパーの“機転”に反響【新型コロナ】/ar-BB13MUPU?ocid=spartanntp>

全日本食品株式会社（全日食チェーン） <https://www.cyland.co.jp/zns/>

コンビニ冷蔵庫のドアを手で触らず足で開閉出来るよう工夫
(セブンイレブン春日公園前店／福岡県春日市)

・コンビニ冷蔵庫のドアを手で触らずに、足で開閉出来るよう 経営者が独自の工夫

福岡県春日市のセブンイレブン春日公園前店では、冷蔵庫のドアノブに手を触れず開閉ができるように、コの字型に加工した厚さ3mmのアルミ板をドア下部に取り付け、足で掛けて開けられるように感染防止の工夫をしています。

「最初は『お行儀が悪い』と敬遠されるかと心配しましたが、皆さん喜んで使ってくださいています。もし同様の取り組みをしたい店があれば、どんどん真似してください」とオーナーの大原 耕治さんは呼びかけます。

フィンランドでも、同じような取り組みがスーパーマーケットで試験的に始まっています。こちらは冷蔵庫の取っ手部分に取り付けた突起部分に腕を掛けて手前に引くことで、手で触らずに扉を開けることが出来る工夫となっています。

「優れているし、役に立つ」「機能的だ。障害のある人たちも使いやすいと思う」といった感想が聞かれ、反応は上々とのことでした。

<参考>

冷蔵庫のドアは足で開閉を コンビニ経営者が取り組む独自の工夫

<https://news.livedoor.com/article/detail/18153767/>

触らずに開けられる冷蔵庫、フィンランドのスーパーで試験導入

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6808d397b1ad362726f9b1cac266e669fa610a7b>

・別々の店での注文メニューも一括宅配 売り上げ減の飲食店支援

埼玉県熊谷市で、テイクアウトの一括宅配の実験的な取り組みが行われています。お弁当やスイーツなど別々の店でメニューを注文しても、それをまとめてデリバリーしてくれる、熊谷版ウーバーイーツこと「クーマーイーツ！」。感染リスクを減らすことができる上に、フードコートのように様々な店のメニューが一度に楽しめ、売り上げ減の飲食店の支援にもつながります。

企画の中心はシェアカフェなどを運営し、空き家・空き家のリノベーションと連動したまちづくりを展開する市内の設計士白田和裕さん。

SNSを中心に市民同士のコミュニケーションが広がり実現したもので、取り組みには市内などにある10店舗が参加し、インターネットのサイトでランチの注文を受付けると（毎週金曜日のランチタイム予定）、配達員アルバイトがまとめて配達をする仕組みとなっています。

「始めてみて出てきた課題もあるが、公共機関や企業など大きな注文を増やして継続させたい。宅配を通して、1人体制で全部こなすような各店の状況が分かったのも収穫。今後はディナータイムに展開し、宅配一括サービス以外の家賃対策や雇用調整も含めてできることを仕掛けていきたい」と白田さんはコメントしています。

<参考>

熊谷で飲食店支援、宅配一括サービス「クーマーイーツ！」社会実験始まる

<https://kumagaya.keizai.biz/headline/698/>

クーマーイーツ！

<https://www.facebook.com/kuma.eats2020/>

医療機関からの依頼で自動車部品メーカーがマスクを作成
(脳神経センター大田記念病院／有限会社 広島ピーエス／五洋医療器株式会社)

・医療機関からの依頼で自動車部品メーカーがマスク作成 「無いものは作る」を合言葉に

広島県福山市の脳神経センター大田記念病院では、全国的なマスク不足により、マスクの確保が困難となったため、臨床現場以外の職員が使うマスクの型を、病院職員が不織布で手作りするなどして企画。

自動車シートメーカーの有限会社広島ピーエス（広島県広島市）に製造をお願いし、医療機器卸の五洋医療器株式会社（広島市）が発売元となり生産販売が実現しました。

マスクの素材は、医療用に用いられるポリプロピレンで出来たSMS不織布。型抜いただけなので、自分でホッチキスなどで3か所ほど立体的に留めて使用する必要がありますが、窓口業務や患者と接しない業務の人が使用するには十分な感染防止効果があるといえます。そのため、医療用サージカルマスクを医師や看護師に回せることができるようになったそうです。

大田記念病院ではガウン不足にも対応するため、地元の青年会議所のメンバーと連携し、試作品を製作しているとのこと。

<参考>

医療用マスクやガウン不足に中小企業の底力「無いものは作る」新型コロナ

<https://news.yahoo.co.jp/byline/mamoruichikawa/20200422-00174565/>

東広島産のマスクを届けたい

<https://note.com/akkilifestyle/n/n87126da90275#vmmk>

脳神経センター大田記念病院 <https://otahp.jp/>

有限会社 広島ピーエス <https://hiroshimaps.com/>

五洋医療器株式会社 <https://www.goyoh-medical.jp/>

・ **新型コロナウイルスによる子供へのDV・虐待・性被害などの増加や悪化を懸念
認定NPO法人3keysが今後の具体的な取り組みを掲載**

虐待で保護された子どもたちへ学習支援を行う他、援助希求能力がある10歳以上が利用できる支援機関情報をまとめたポータルサイトMex（ミークス）を運営する、NPO法人 3keysが「新型コロナウイルス長期化を踏まえた、虐待や貧困下の子どもたちへの対応について」をホームページに掲載しました。

自粛要請を受けてもなお、外出を控えない中学生・高校生らが一部にいます。しかしその一部の子供たちが、虐待や貧困で居場所を奪われているなど深刻な事情を抱えていることに目を向けたことはあるでしょうか。家にいることで死ぬかもしれない子どもがいる。そうした事情にまで想像が及ぶ人はまだ少ない、と代表の森山さんは言います。私たち大人や社会がやるべきことは一つです。コロナからも、虐待や犯罪被害のリスクからも、両方から子どもたちを守る方法を考えていくことです。としています。

新型コロナウイルス長期化を踏まえた、NPO法人3keysの具体的な取り組み

- ① 虐待/デートDVの啓発・適切な支援機関への接続
- ② 虐待やデートDV・妊娠など、コロナの長期化によって、増えうる相談に対応する、子どもの支援窓口の接続率の調査・開示及び改善要求
- ③ 子どもたちが駆け込める支援機関の質・量の向上に向けた取り組み
- ④ ツイキャスやYouTube live等によるオンライン相談会の実施
- ⑤ 家にいることが危険な子どもたちの逃げ場かつ、ワンストップで支援が受けられる総合支援拠点のモデルづくり

<参考>

新型コロナウイルスによる虐待や貧困下の子どもたちへの影響について

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000044455.html>

NPO法人 3keys <https://3keys.jp/>

ご感想、ご意見、ご要望をぜひお寄せください。

<https://www.ideaship.info/contact-us/>

